

設楽の城砦めぐり
— 小鷹城編 —



大平地区から小鷹城址を望む

城址は、東納庫の西に聳える小鷹山（ぶく仏庫裡）から北に伸びる尾根の先端部を堀切で分断して築かれた山岳城である。現在、護良親王を祀る小鷹神社のある標高一〇二五メートルの場所が本曲輪と思われ、その南下に腰曲輪と堀切が残る。

ここから、一五〇メートル北にある二宮大神の石祠の場所が二曲輪と思われ、北に帯曲輪・南に腰曲輪と堀切が残る。

城の構造から推測すると、南北朝時代に築かれ、南朝方の城として使われ、南朝の衰退後、戦国時代中期に当地を領した奥平信光によって改修された。

社殿の中には、信光の奉納した鉄弓矢があると伝えられる。

また、国内で最も標高の高い場所に築かれた城の一つでもある。

（愛知県文化財保護指導委員

加藤 博俊）